

『議題(1) 長久手市の食育推進計画の進捗状況』に係る事務局説明要旨

1. H29 調査シートの変更要点

① 各課の取組改善点

ア 高齢期における共食の機会づくり（長寿課）【資料2、1ページ】

昨年度の課題として場所と参加者が限られるという点が挙げられたが、福祉の家だけでなく市内の集会所や憩いの家等、地域のサロンにも昼食の場を取り入れたことで改善した。

イ 食育の情報提供（みどりの推進課）【資料2、1,2,3,5ページ】

市ホームページにて、食育関係各課の取組を紹介するページを作成し公開した。また、真菜の紹介ページを作成し公開した。

② その他

ア “取組事業なし”の表記（福祉課・たつせがある課）【資料2、4,5ページ】

間接的な取組であるため、内容を別途協議した。

イ “廃止”の表記（平成こども塾）【資料2、5ページ】

食育月間である6月に収穫祭を行うことが時期的に困難であるため、内容としてそぐわないという意味で廃止とした。今後、収穫祭の文言を消す。

2. H28 食育推進支援会議での意見に対する H29 推進部会の回答

① 市民団体の把握について

「市内で活動している食育に関する団体の活動内容を洗い出し、シート等に反映してほしい。」

→各課が連携している団体を活動ごとに調査シート（資料2）に記載し、食育活動体系図（資料3）に反映した。

② 食育活動の情報発信について

ア 方法・場所について

「各課が行っている取組を、コンビニや薬局等の市の施設以外を利用したり、SNSを活用したりできないか。」

→コンビニや薬局に設置した事例はなく、今のところ見通しもない。今後、食育に関する取組を情報発信する際は、各対象に合わせて施設に設置するよう工夫する。

イ 時期について

「時期に応じた啓発活動を行うことが重要である。具体例として、給食センターの試食会を、就学前の子供を持つ親を対象に、就学時前検診の際に周知すると良いのではないか。」

→人員不足や立ち入り場所への制約があるため、現在年に3回実施している試食会を維持したい。

③ ボランティアの募集について

「こども塾等で新規ボランティアの育成を課題としているが、広報等に掲載し周知することでボランティアの希望者が増えるのではないか。」

→広報をはじめ情報誌に募集記事を掲載し、随時ボランティアを募集してきた。ケーブルテレビ等にも取り上げられたが、効果はあまり見られない。実情としては、ボランティア同士の伝手や、プログラムの卒業生を頼っている。

④ 食育に関するサポーターやリーダーの育成について

「参加者やボランティアに関して、リピーターが多いことを課題と捉えるのではなく、何度か同じプログラムに参加した人が、新規の人をサポートするシステムを整えれば、リーダーが育ち食育の裾野が広がるのではないか。」

→前向きな意見であり非常に嬉しく思う。ボランティアの裾野を広げるという意味では、リーダー育成の試みも考えていきたい。

⑤ アレルギー対策について

「愛知医大と連携して月に1回程度アレルギー相談会を開催してはどうか。」

→アレルギーの内容に特化した相談会は実施の見通しはない。しかし、乳幼児検診の際に医師の方や保健師がご相談を受けている。また、リーフレット等での周知も図っている。

*詳細は会議当日に補足説明いたします。